

8. 飯田保健所におけるスギ・ヒノキ花粉飛散情報提供事業について

小林貞子、藤本和子、羽場昇、佐々木隆一郎（飯田保健所）

要旨：飯田保健所では、スギ・ヒノキ花粉飛散情報提供事業の一環として、平成5年からスギ・ヒノキ花粉飛散量調査を開始し、その後アレルギー性鼻炎患者数調査、スギ雄花着花状況調査、飛散予測を行っている。平成4年から調査を実施している長野市との比較を通してこの事業の役割について検討した。飯田市と長野市を比較すると10年間の平均値では、飛散開始日については、飯田市が11日早く、飛散量については、スギはほぼ同じ、ヒノキは飯田市が多く、スギ・ヒノキ合計でも、飯田市が多かった。当所のアレルギー性鼻炎患者数調査では、患者数は調査開始以来最も多かった。環境省の花粉総飛散量等の予測は、長野県では長野市のみであり、飯田市については行われていない。長野県では今、組織改正に伴う事業の見直しが行われているが、飯田保健所が花粉飛散状況を調査し地域住民に情報を提供することは、有用であると考えます。

キーワード：スギ・ヒノキ花粉、長野市の花粉飛散量調査、アレルギー性鼻炎患者数、環境省の予測

A 目的

スギ・ヒノキ花粉症対策には、発症前の予防対策が重要な役割を担っている。飯田保健所では、平成5年からスギ・ヒノキ花粉飛散量調査を実施し、その後、アレルギー性鼻炎患者数調査、スギ雄花着花状況調査、飛散予測等を実施してきた。

環境省で発表する花粉総飛散量等の予測は、長野県については長野市のみ発表される。今回、長野市と当所の調査結果の比較を行い、飯田市の飛散状況について調べ、当所の事業の役割について検討したので報告する。

B 調査方法

① 飯田市と長野市の飛散状況の比較

期間：平成5年から20年の16年間

内容：飛散開始日、花粉飛散量

飛散状況：長野県の花粉飛散状況（環境保全研究所による花粉飛散量共同調査による）

観測方法：花粉情報標準化委員会の方法による¹⁾

② 当所のアレルギー性鼻炎患者数について

期間：2月から4月（日別患者数について）

協力病院：飯田市立病院

対象：初診および再診アレルギー性鼻炎患者数

C 結果

① 飯田市と長野市の飛散状況の比較

飛散開始日について表1に示す。最も早かった飛散開始日は、飯田市については、平成19年の2月10日であり、長野市では、平成19年の2月20

日であった。一方、最も遅かったのは、飯田市では、平成16年の3月10日、長野市では平成6年の3月19日であった。平均では、飯田市が2月22日、長野市が3月5日であり、飯田市が11日早かった。

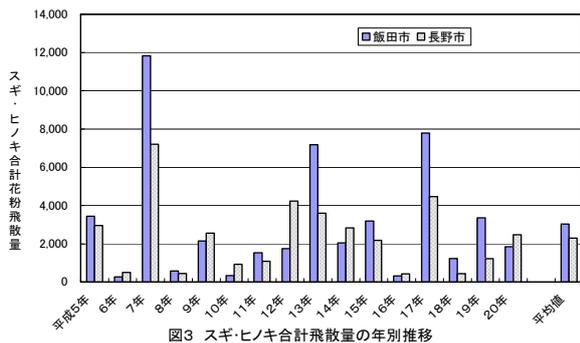
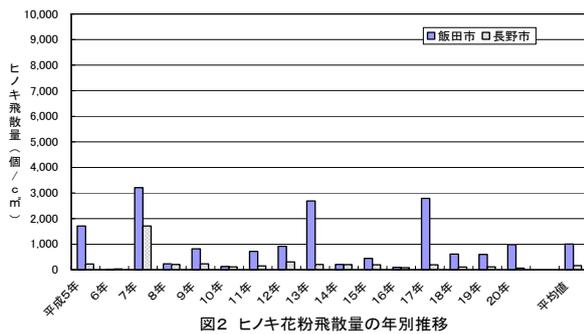
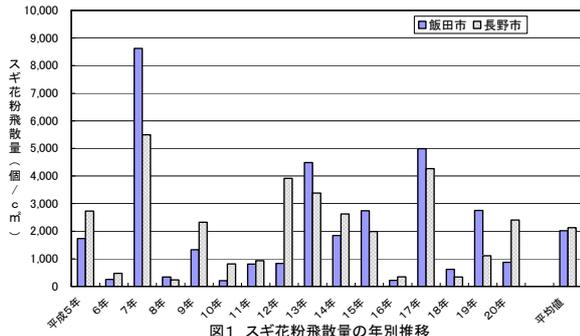
表1 飯田市と長野市の飛散開始日の年別推移

	飯田市		長野市		差
平成5年	2/16	④	2/27	③	11
6年	3/9	⑭	3/19	⑯	10
7年	2/24	⑨	3/7	⑨	11
8年	3/8	⑭	3/16	⑮	8
9年	2/26	⑩	2/27	③	1
10年	2/19	⑦	3/2	⑥	11
11年	2/26	⑩	3/4	⑦	6
12年	2/14	②	3/12	⑫	27
13年	2/22	⑧	3/13	⑬	19
14年	2/15	③	2/25	②	10
15年	2/17	⑤	2/28	⑤	11
16年	3/10	⑯	3/10	⑪	0
17年	3/4	⑫	3/16	⑭	12
18年	2/18	⑥	3/4	⑧	14
19年	2/10	①	2/20	①	10
20年	3/6	⑬	3/8	⑩	2
平均値	2/22	-	3/5	-	11

*平均値は11年～20年の10年間の平均である。飛散開始日の右横の○数字は早い順から示している。差は長野市と飯田市の飛散開始日の日数の差である。

花粉飛散量の年別推移について図1、2、3に示す。スギ花粉の飛散量は、過去10年間の平均値と比較すると、ほぼ同じである。しかし、今年、飯田市は長野市の約1/3の飛散量であり、昨年は2.5倍の飛散量であった。飯田市と長野市のスギ飛散状況は、同じ傾向を示さなかった。

ヒノキ花粉については、長野市は平均値が約160個/c㎡と少なく、飯田市は1,080個/c㎡であり、約7倍の飛散量である。ヒノキ花粉の飛散量が多いのは飯田市の特徴と思われる。スギ・ヒノキ合計飛散量については、今年の状況は、飯田市は平均より少なく、長野市は平均より多く、飛散状況の傾向は異なっている。



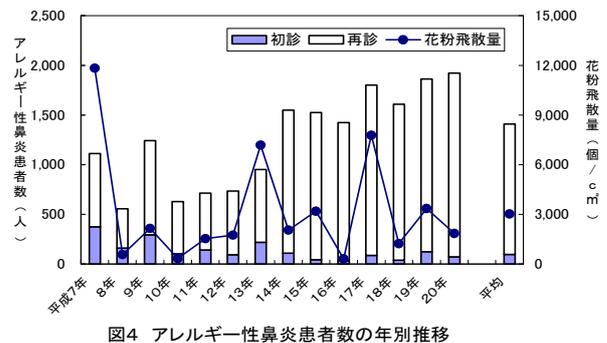
② アレルギー性鼻炎患者数について

年別のアレルギー性鼻炎患者数を表2、図4に示す。平成20年の初診患者数は74人で、平均の約0.8倍で少ない状況であった。再診患者数については1,847人で、調査開始以来最も多い状況であった。アレルギー性鼻炎患者数については、平成14年以降増加する傾向が見られた。

表2 アレルギー性鼻炎患者数と花粉飛散量の年別推移

平成	初診	再診	合計	花粉飛散量
7年	375	737	1,112	11,829.7
8年	161	397	558	575.2
9年	295	947	1,242	2,150.0
10年	103	526	629	337.1
11年	141	573	714	1,532.3
12年	94	642	736	1,751.0
13年	219	732	951	7,187.0
14年	111	1,438	1,549	2,050.5
15年	45	1,481	1,526	3,188.4
16年	34	1,391	1,425	317.0
17年	88	1,714	1,802	7,783.2
18年	39	1,570	1,609	1,234.2
19年	125	1,739	1,864	3,357.1
20年	74	1,847	1,921	1,853.4
平均値	97.0	1,312.7	1,409.7	3,025.4

* 平均値：平成11年～20年の平均を示す。
花粉飛散量はスギ・ヒノキの合計である(個/c㎡)。



D 考察

飯田市と長野市を比較すると、飛散開始日においては、飯田市は平均で11日早く、スギ花粉飛散量についてはほぼ同じで、ヒノキ花粉は非常に多かった。飛散状況は長野市と飯田市では異なることがわかった。環境省による予測は、県内で長野市のみであり、飯田市には当てはまらないと思われる。一方、アレルギー性鼻炎患者数は、花粉飛散量の少ない年も多い状況で推移している傾向がみられた。

長野県では今、組織改正に伴う事業の見直しが行われているが、飯田保健所が花粉飛散状況を調査し地域住民に情報を提供することは、有用であると考えられる。

1) 空中花粉測定および花粉情報標準化委員会 (平成6年) 合意事項